

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570302214		
法人名	にいがた寿会		
事業所名	グループホーム てらの桜園		
所在地	新潟県上越市板倉区久々野2278番2		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・自然の中で、四季の楽しみを感じていただきながら、行事や作品作りに参加されている。
- ・『利用者ファースト』を掲げ利用者優先、利用者本位の介護を支援している。
- ・1人1人の力を活かし、作品作りやお手伝い等やりがいを見つけ、個々の生活に張り合いや喜びを感じて頂くよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームてらの桜園は、自然豊かな山間部、雪の多い地域に位置している。もともと小学校であった跡地に、地元住民からの「福祉施設にしてほしい」との要望を受け2006年度に開設された。事業所のある建物には体育館やグラウンドが残っており、グランドゴルフや輪投げ等で近隣住民が気軽に活用できる場となっている。災害時には避難所として機能する等、身近な拠点として存在する。地域との関わりは深く、祭り等の行事への参加、冬季の除雪など日常的な付き合いや相談ができる関係性が構築されている。

職員全員で話し合っって作った理念「利用者ファースト」を意識し、利用者の想いや選択を大切にケアを実践している。何気ない日常の中にある利用者の意欲を感じ取り、それぞれの役割や特技を活かした生活となるよう工夫している。

残念ながら令和4年8月で事業所の休業を予定しているが、事業所が培ってきた地域とのつながりや関わり、ケアに対する想いや姿勢が何かしらの形で引き継がれていき、これからも地域の暮らしに貢献されることに期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をモットーに「利用者ファースト」という介護の実践に取り組んでいる。	事業所理念の具体的実現のため、4年前に職員全員で話し合い「利用者ファースト」という目標を作った。この理念には、利用者の選択や思いを聞きとり優先できるようにしたいという思いが込められており、管理者は日々の実践の様子から成果を感じつつ取り組んでいるところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前、地域の行事や近隣小学校との交流、防災訓練に地域の方の参加も行っていた。	コロナ禍で地域との交流は大幅に減少しているが、近隣の方から敷地内の除雪作業を手伝ってもらう等、地域の一員としての関わりは、開設時から途切れず継続されている。コロナ禍以前は、旧小学校だった施設へ地域の方がランドゴルフや輪投げで訪れたり、祭りやイベントの参加があった。また、日頃から畑の野菜の差し入れなど気軽な交流をする関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は外部の方々との交流は果たせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の書面での報告を行っている。コロナ以前は広報誌を見て頂いていたが、現在配布はしていない。	現在はコロナ禍のため、2ヶ月に1回、書面で運営報告を行っている。会議のメンバーは近隣の区長2名、民生委員3名、地域の連絡協議員、地域包括支援センター職員などで構成されている。コロナ禍以前は利用者、家族にも参加してもらっていた。会議では、広報紙を地域に回覧してはどうかという意見をもらい検討する等、意見を運営に反映できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市及び区の担当者とは適宜連携を行い、問題点があれば連絡を取り対応している。	市役所の地域拠点である総合事務所の職員とは、必要時の連絡・協力をを行っている。地域包括支援センターとは、入所や困難ケースなどについて連携を図り日常的に相談できる関係にある。研修会や地域ケア推進会議にも参加する等、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのオンライン研修に参加している。問題点があれば職員間で情報共有し、話し合い今できる限りの最善の対策を行っている。	法人内で「人権擁護委員会」を設置しており、毎月の会議で検討が行なわれている。日常では会議のなかで対応や言葉かけについて考える機会を持つほか、書面で回覧し理解を深めるよう取り組んでいる。	外部の研修は書面だけでなく、事業所の実践に沿った形で確認することで具体的な振り返りの機会となり、新たな気づきを得ることができるのではないだろうか。学びを実践に活かせる取り組みに期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人での人権擁護委員会に参加し情報共有・連携を図っている。身体拘束や虐待についての勉強会に年1回参加している。	上記同様に「人権擁護委員会」で検討が行われ、年1回全職員を対象に研修を開催している。利用者一人ひとりのケアを見直して不適切な対応となっていないか確認し意識を高めている。法人では全職員にストレスチェックを実施し、日常では日頃のやり取りのなかで負担等を話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を活用してはいないが、法人での研修を受けて今後の利用者に備えて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時ご家族・ご本人と話し合い、疑問があればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の意見を取り入れながら運営を行っている。	法人で2年に1回、家族向けにアンケートを実施している。現在、コロナ禍のため家族会は開催していないが、玄関先での面会時や電話連絡時に意見や要望を確認している。利用者からは日常のやり取りの中で聞き取りを行ない、運営や活動に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議での意見交換やカンファレンス、日々の業務の中でも行っている。	申し送りノートを活用して日頃から提案をしやすいように工夫し、議題は職員会議にて検討している。具体的には業務時間の見直しや業務上での困りごと等の改善を図っている。事業所内で解決できない事項は管理者が法人の運営会議に提案し協議されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の異動・削減により厳しい中、業務の遂行を工夫しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はオンラインにとどまっている。内部研修については各施設での研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部との交流は出来ていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人の意向を伺い入所後は傾聴し、職員間で情報共有を行っている。ご本人の不安を軽減し信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や入所時に意向を伺いそれに沿ったサービスで不安軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時や入所時・入所後にその方の課題となる要件を見出し、ご家族と相談しながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、その方に合った対応をしている。また、体調や気分を見ながら家事参加をして頂いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時連絡を取り合っている。支援が必要な時には家族に相談させて頂いている。	利用者の生活の様子は、物品購入依頼、状態変化時、介護計画作成時の連絡に家族に伝えるとともに4か月に1回写真入りの広報紙を送付している。	コロナ禍において本人の生活状況が伝わりにくい状況にある。家族へこまめに生活状況を伝えられるよう工夫し、本人とともに支え合うための協力体制が充実するような取り組みに期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの散髪店へ行ったり外出時自宅近くを通ったり、なじみの道を通るようにしている。	コロナ禍のため馴染みの関わりが少なくなっているが、ドライブ中に馴染みの場所を通ったり散髪の支援を行なっている。馴染みの人や場所などについては、入居前に聞き取り、把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく仲の良い方と近くにし、職員が利用者同士の関係性を考慮しながら、円滑な関係性になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添い傾聴し、意向を取り入れている。出来ることをなるべく続けて行けるよう支援している。	日々の関わりのなかで安心して話ができるよう配慮しながら思いや意向の把握を行なっている。聞き取った思いや意向はモニタリングの際に職員間で確認し共有している。	思いや意向は日々変化するものである。知り得た情報を集約・共有し、介護計画に反映できるような書式の活用に期待したい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人より出来るだけ情報を集め、職員に情報共有してもらい支援に当たっている。	入居前に、家族や担当の居宅ケアマネジャー等の関係者から聞き取っている。自宅を訪問し自室の環境確認を行ない入居後の生活を整えている。聞き取った情報を記入するシートはあるが活用には至っていない状況である。	それぞれの利用者が長年培ってきた「暮らし」はその人らしさの情報と言える。これまでの暮らしがこれからの暮らしに反映できるよう、現在のシートを十分に活用されることが望ましい。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活していく中で個々の変化や気づきを職員が情報共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回のモニタリングや12か月に1回や状態変化があった場合、介護計画見直しを新たに作成している。その際ご本人やご家族にも意向をお聞きし様子を見ながら組み込むようにしている。	計画作成担当者が本人の意向確認、アセスメントを行なった後、計画の原案を作成、職員間でサービス担当者会議を開催している。計画内容は家族に郵送し同意を得ている。モニタリング時には他の職員からも意見をもらい評価して、計画へ反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違った様子や困っている事など、記録に残したり、その場で話し合いをして情報共有している。カンファレンスをしてケアプランに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族による付き添い(病院や散髪等)を行ないたいが、難しい場合は職員で対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな地で、近くの施設やご近所の花畑等を見せて頂くなど楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族にかかりつけ医の説明を行い入所して頂いている。急な症状で切迫性がない限りはご家族に症状をお伝えしDrに報告している。	月1回協力医療機関の医師による往診があり、事前にFAXで情報提供を行いスムーズな診療につなげている。処方薬は週1回薬局が届けてくれている。専門医の受診時は家族の協力を得て通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者・ケアマネに相談し診療所へ報告している。ご家族にも連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、退院後は安心して生活できるよう病院関係者と連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアが行えないことを事前に説明し、入所して頂いている。退所の見極めや判断を具体例を使い説明している。特養への申し込み等ご家族に相談し支援している。	重度化や終末期の方針は、入居時に家族へ具体例を用いて口頭で説明している。利用者の状態に応じて相談を行い、不安の解消に努めるとともに、特別養護老人ホームの申し込みといった住み替えの提案や支援を行なっている。	具体例を用いて丁寧に説明がなされているが、事業所と家族とが将来の方向性や目安の共有を図るためにも、事業所としての指針を書面で整備することが望ましい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え毎年消防署員を招き救命救急の講習を行っている。	毎年、AEDの使用方法を含めた救急救命の講座があり、全職員が受講できる体制にある。事故発生時のマニュアルを整備中であり、現時点で整備できているフローチャートに沿って必要な対応を行なっている。	日常的に起こり得る事故への初期対応等のマニュアル整備が途中である。実践に沿って対応できる適切なマニュアル整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年3回行っており、コロナ以前は地域の方にもご参加頂いた。	年3回、避難訓練を実施している。火災、地震、土砂災害に備えマニュアルが整備され、夜間対応の訓練も行なっている。事業所のある建物は地域の指定避難所となっている。コロナ禍のため地域の訓練は中止となっているが有事には協力できる体制にある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった声かけ・相手の立場に立った対応を行っている。	法人内の「人権擁護委員会」で対応や言葉遣いについて検討している。日頃から丁寧な言葉遣いを意識し、気になる部分は管理者が職員へ声をかけ考える機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話に思いや希望が出てくるので、それを汲み取りなるべく希望に沿うよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを尊重している。その一方でどう過ごすか希望に応えられているのかは不明。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室は月に1回のペースで来て頂いており、その方にあった髪型にして頂いている。服装については季節に合った服を職員が用意した中でご自分で着替えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理レクでは一緒に盛り付けて頂くなど手伝って頂いていた。食事の前後に役割をもって家事の参加をして頂いている。	職員の負担軽減のため、副食は外部発注となっている。炊飯と味噌汁の調理は事業所で行なっている。利用者は野菜の下ごしらえや片付け等、各々の役割を持っている。季節折々の献立を取り入れたり、おやつ作りも利用者とともに行ないながら、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせて食事量や水分量を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に合った口腔ケアを行っている。気づいた事は情報共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせた声かけや誘導で失敗の少ない排泄介助をしている。ご自分でパットを交換される方には補充と回収の支援をしている。	排泄時の失敗を軽減できるよう食事前後に誘導や確認を行なっている。また、個々の動作に配慮し必要に応じて声をかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で下剤の調整を行っている。又、水分補給や運動も声かけし支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の好みの時間を把握し、他の方との調整も行いながら入浴頂いている。拒否があった場合は無理せず次の日に繰り越している。	浴室は広めの家庭浴に手すりやシャワーチェア等が整備されている。2~3日間隔を目途に入浴してもらっているが、個々の体調や好みに合わせて時間帯を調整している。希望があれば同性介助も可能である。ゆっくりと会話をし、季節ごとに変わり湯を設ける等、入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない様子があれば、環境整備や空調の調整をしなるべくその方の要望に応えるようにし、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者ごとにファイルがあり、いつでも確認できるようにしている。各ご利用者の様子を細部に観察し、変化があった場合は薬剤師やDrに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の役割分担があり張り合いに繋がっている。レクリエーションや作品作りを楽しみや気分転換に行っているが毎日ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は外出が少ない為、暖かい時期にドライブや散歩、外気浴・外でのランチ等を行っている。外部との接触はコロナ感染予防の為現在はしていないが、感染状況が落ち着けば再開したい。	コロナ禍で外出制限があるなか、ドライブを行い気分転換を図っている。また、気候に合わせて事業所周围を散歩し、ヨモギ採りをする等、戸外で活動できる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は現金の持参をしてもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと要望があれば、ご本人の状態等考慮したうえで対応している。手紙についても同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が気持ちよく過ごせるような空間作りを行っている。季節に合わせた装飾で季節感を取り入れている。	共有空間は感染予防に配慮したテーブル配置となっている。利用者と共に作った作品や季節の装飾があり、ソファが設置され居心地よく過ごせるよう整備されている。廊下にも2~3人が座れるベンチが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々気の合った方と適度の距離感で食席の配置を行っている。トラブルがあればその都度職員同士で話し合い、席を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時なじみの物を持ってきて頂いたりして居心地の良い居室作りをしている。	入居前に自宅の環境を確認し居室のベッド等の配置を行なっている。なるべく使い慣れたものを持参してもらおう働きかけ、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室・廊下に手すりを設置し安全に過ごせるようになっている。居室やトイレにはわかりやすいように目線に合わせて表示をし、分かりやすい環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				